

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【公表番号】特表2003-531854(P2003-531854A)

【公表日】平成15年10月28日(2003.10.28)

【出願番号】特願2001-579793(P2001-579793)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/727 (2006.01)

A 6 1 P 9/04 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 8 B 37/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/727

A 6 1 P 9/04

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 8 B 37/10

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アポトーシス抑制用の薬剤の製造のための有効量のヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンの使用。

【請求項 2】

前記ヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンが虚血－再灌流脳におけるアポトーシスを抑制し、脳卒中における好中球細胞死を減少させる請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記ヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンが心不全におけるアポトーシスを抑制し、鬱血性心不全と心筋症におけるアポトーシス細胞死を減少させる請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】

前記ヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンが虚血－再灌流心筋におけるアポトーシスを抑制し、心筋梗塞における心筋細胞死を減少させる請求項 1 に記載の使用。

【請求項 5】

前記ヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンが、急性外傷、出血性ショックの結果として起こる広範囲の虚血－再灌流障害、および脊髄損傷から成る群から選択される状態に由来するアポトーシスを抑制する請求項 1 に記載の使用。

【請求項 6】

前記薬剤の製造に非抗凝固性ヘパリンが使用され、前記非抗凝固性ヘパリンが、O－脱硫酸化ヘパリンおよびN－脱硫酸化ヘパリンから成る群から選択される請求項 1 に記載の使用。

【請求項 7】

前記非抗凝固性ヘパリンがO－脱硫酸化ヘパリンである請求項 6 に記載の使用。

【請求項 8】

前記有効量が 3 mg / kg から 100 mg / kg である請求項 1 に記載の使用。

【請求項 9】

前記有効量が 3.5 mg / kg から 10 mg / kg である請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】

ヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンを、カルボン酸または遊離アミノ基との反応により親油性部分に結合し、通常はヘパリンを濃縮しない細胞種による細胞取り込みを増強することから成るヘパリンまたは非抗凝固性ヘパリンの抗アポトーシス作用の増強方法。

【請求項 11】

前記親油性部分が脂肪酸またはコレステロールである請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

非抗凝固性ヘパリンが親油性部分に結合され、前記非抗凝固性ヘパリンが、O-脱硫酸化ヘパリンおよびN-脱硫酸化ヘパリンから成る群から選択される請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】

前記非抗凝固性ヘパリンがO-脱硫酸化ヘパリンである請求項 12 に記載の方法。